

ビーチコーミング

せつめい しりょう
説明資料

国立若狭湾青少年自然の家



ビーチコーミングとは

ビーチコーミングと聞いて、
みなさんはどんな活動を思い浮かべますか？

ビーチコーミングとは



ビーチコーミングとは 説明ポイント

1. ビーチコーミングはどんな活動だと思うか聞く。グループでも個人でも可
2. ビーチコーミングとは、ビーチ（浜）をコーミング（とがすこと：コームは櫛を意味し、髪をとがすことをコーミングという）すること。
3. 浜辺を人の手（くし）でとがすように漂着物を拾って綺麗にすることから名づけられた。綺麗にするのと同時に、どうやったら漂着物を減らすことができるか、なぜこれらの漂着物が発生してしまうのかを考える活動です。
4. 浜をきれいにするために地域で様々な取り組みが行われている。自分たちの住む地域ではどのような取り組みがされているか？また、そのような取り組みを知っているかどうかを問いかける。

海辺にあるもの



海辺にあるもの 説明ポイント

1. 海辺にはどのようなものが落ちているか想像してもらう
2. 海辺には貝殻やシーグラスなど綺麗なものがたくさんある。しかし、自然物以外のものも落ちていることに気づいてもらう。
3. 綺麗な海を維持して未来に残していくために、後に話す海洋ごみ問題が解決すべき問題であると子どもたちに認識してもらうことがポイント。

※シーグラス…瓶などのガラス片が海や川の推定にある砂利や水流によって角が取れ、丸くなったもの。割れ方や大きさ、色はさまざま。波打ち際に落ちていることが多い。

海洋ごみ

冬の若狭湾の浜の様子

↓ 流木や枝、ブイやポリタンク
などが流れ着いている。



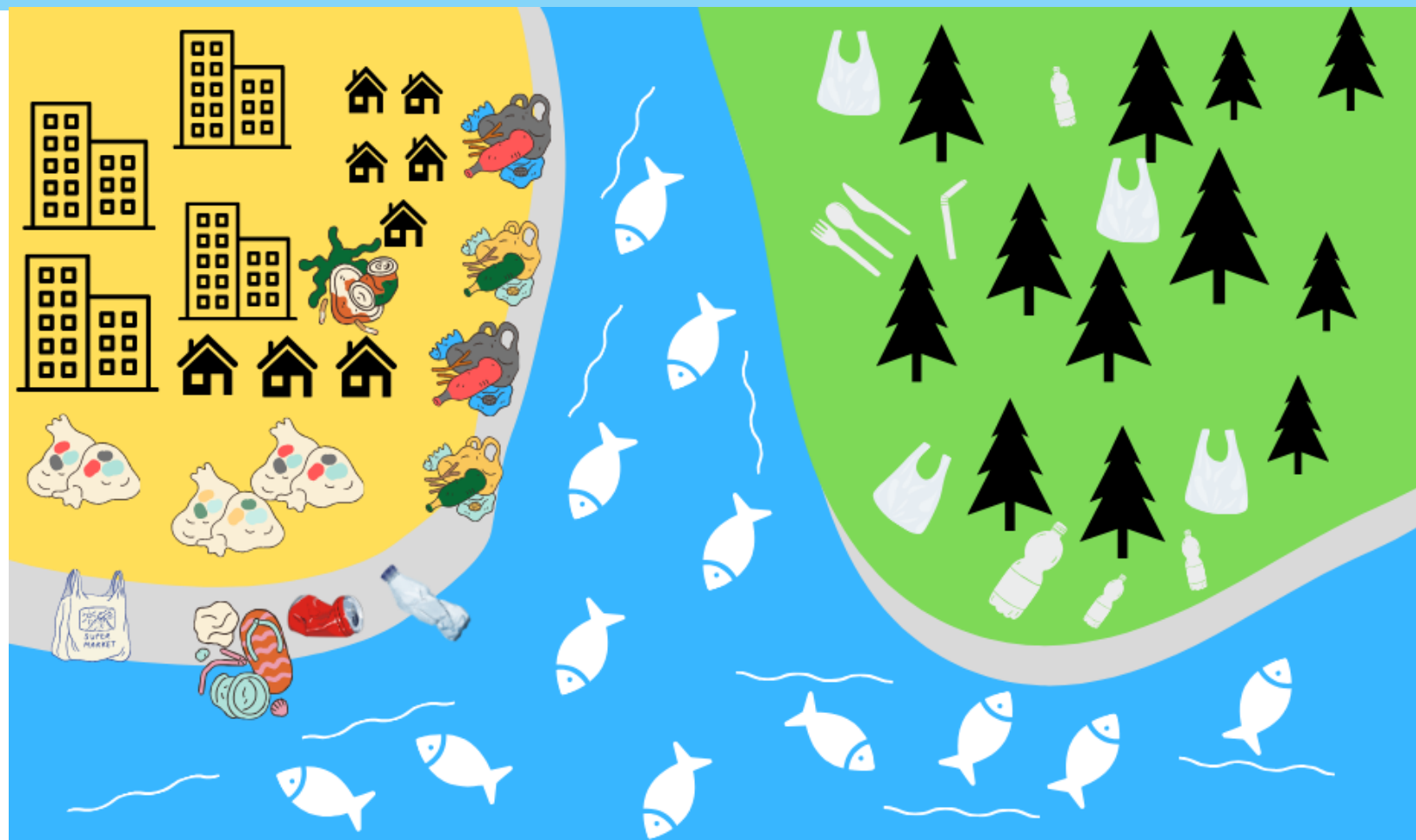
↑ 自然物の中にブイのオレンジ色（人工物）が目立つ。

また、波によって浜が押し上げられている。

海洋ごみ 説明ポイント

1. 若狭湾の海は、夏は綺麗でも、冬になると一変する。同じように、その他の地域の浜にも海洋ごみが散乱していることを知ってもらう。また、海洋ごみが流れつく季節が太平洋側と日本海側で異なるのはなぜかも考えてもらう。
2. 日用品や漁具など多種多様なゴミが漂着していることに気づいてもらう。
3. これらの海洋ごみがどうして流れ着いたのかを考えてもらう。若狭湾の大浜には、外国から流れつくゴミもある(ペットボトルやポリタンクなど)。「どこからごみが流れてきたのか」、「どうして若狭湾の大浜に流れついたのか」を考え、世界と海がつながっていることを感じてほしい。

海洋ごみはどこからやってくる？



内陸で発生したごみは、森→川→海へと水の流れを通じて海岸に漂着する

海洋ごみはどこからやってくる？

説明ポイント

1. 町中～海までのいたるところにどんなごみがあるかを考えてもらう。
そして、それらのごみが海洋ごみとして浜につくことに気づいてもらう。
 2. このことから、海ごみは内陸から発生していることに気づいてもらい、身近な問題だと認識してもらう。ごみが浜まで流れていくのは水の流れ以外にどんな要因があるか考えてもらう。(風やポイ捨て)
 3. ごみの中でも、プラスチックが多いことに気づくと、マイクロプラスチックの話にも繋げることができる。
- ◆13ページに詳細な説明が載っています。

海洋ごみが引き起こす問題とは



海洋ごみが引き起こす問題とは 説明ポイント

- ① ビニール袋のそばを泳ぐジンベエザメ。最大の魚だが、プラスチック片を食べてしまう危険にさらされている。
- ② プラスチックごみと一緒に水面を漂う海草。下にはゴミから遠ざかるアオウミガメが見える。
- ③ オオニワシドリが、割れたガラスやプラスチック製のおもちゃなど、人間が出したごみの破片で巣を飾っている。
- ④ 吐き出したごみの山の近くで休むコアホウドリとひな。鳥の胃の一部である砂のう（食べたものを砕くための器官）が小さい鳥は、消化できないプラスチックを吐き出せないため、プラスチック汚染の影響を受けやすい。

海洋ごみが引き起こす問題とは

海岸に漂着したプラスチックごみ
(発泡スチロールやペットボトル、ビニール袋等) は、
紫外線等によって劣化し、波等によって
小さなプラスチック片となる。

→**マイクロプラスチック**



さまざまな動物がマイクロプラスチックを
エサと間違えて食べてしまう

海洋ごみが引き起こす問題とは 説明ポイント

1. 5mm以下の小さなプラスチック片をマイクロプラスチックと呼ぶ。
2. 紫外線等によって劣化し、波によって小さくなってしまう。
3. 世界各地で、マイクロプラスチックを誤飲誤食した生き物が見つかっている。
4. プラスチックは自然界では分解されず、小さくなると回収ができない。
5. マイクロプラスチックになる前に回収することが重要だと気付いてもらう。

実際にビーチコーミングをしてみよう

1. 海辺を歩いてビーチコーミングをしてみよう。
2. バケツやゴミ袋に入る大きさのものを拾う。
3. 赤石の浜に行く場合は、ライフジャケットを着用する。
4. 活動時間と集合場所は団体で決め、共有する。

実際にビーチコーミングをしてみよう 活動後

1. 拾ってきたものを分類してみる。
2. 分類例) 日本と海外の漂着物、陸と海の漂着物、漁具とその他、プラスチックとその他 等
3. 分類して気付いたこと、考えたことを、班・団体に共有する。
4. 改めて、自分たちの身近な水辺と比べてみる。

海洋ごみ問題の解決のための取り組み

右：田鳥の浜清掃

下：アップサイクル製品



海洋ごみ問題の解決のための取り組み 説明ポイント

1. 一人一人ができることは小さいかもしれないが、コツコツ取り組み、活動を広げていくことが大切。
2. 若狭地域でも、海洋ごみ問題と向き合い、アップサイクル品を作ったりしている団体や企業がある。※アップサイクルとは、本来捨てられるはずのモノに新たな価値を与えて再生すること。(見本を見せる。)

その他にも・・・

1. 地元・若狭高校海洋科学科の生徒たちが、海洋プラスチックゴミで溢れる若狭湾の現状を知ってほしいという思いから、地元のお箸屋さんと協力して箸を作りました。(伝統工芸品の若狭塗り箸×海洋ゴミ)



参考 : https://www.wakasa-h.ed.jp/special/2022oceanplastic_hashi/

2. 道の駅三方五湖では、海洋プラスチックゴミを原料にしたお土産品、「海ごみきっぷ」を販売している。原料には、海洋ゴミの他に、地元住民から集めたペットボトルキャップも活用しているそう。さまざまな色が混ざり、同じ色合いのものはない。



参考 : <https://wakasabay.jp/articles/-/1369/1000>

海洋ごみを減らすためにできることは？

個人でできることは？

班でできることは？

それぞれ話し合って考えてみよう

海洋ごみを減らすためにできることは？

説明ポイント

1. 自分の地域に置き換えて、海洋ごみを減らすためにできることは何かを考える。(一人でできなくてもこんなことやったらいいんじゃない?でもOK)
2. 身近な水辺(水辺だけでなく、森や公園でもOK)に行き、現状を知る。
3. 現状を知ったうえで出来ることは何かを考える。OK(小さなことでもOK。意識することが大切。)
4. 個人または班で話し合い、学校や家に帰ってから海洋ごみを減らすためにできることを宣言する。(用紙に記入するもOK。)

※海洋ごみだけでなく、環境のためにできることを書くでも可。自分の実行できそうなことを書くのがポイント。

参考

- ① 環境省平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務海洋ごみ学習用教材小中学生用
<https://www.env.go.jp/content/900543596.pdf>
- ② 2020.06.05日本財団ジャーナル【増え続ける海洋ごみ】マイクロプラスチックが人体に与える影響は?東京大学教授に問うhttps://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/44897/ocean_pollution/
- ③ 2022.09.30日本財団ジャーナル日本人のプラごみ廃棄量は世界2位。国内外で加速する「脱プラスチック」の動き<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2022/79985/sustainable>
- ④ ELEMINEST海ごみの8割は街で生まれている 都市で出たごみが海にいづくまで
<https://eleminest.com/article/2038>
- ⑤ NATIONALGEOGRAPHICプラスチックごみに翻弄される動物たち
<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/gallery/070800295/>